

**医学教育分野別評価
産業医科大学医学部医学科
年次報告書**

評価受審年度 2022（令和4）年度

2025（令和7）年8月



University of Occupational and Environmental Health, Japan

医学教育分野別評価 産業医科大学医学部医学科 年次報告書 2025（令和7）年度

医学教育分野別評価の受審 2022（令和4）年度

受審時の医学教育分野評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023年10月1日から7年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次回の受審までに改善に努めることとしている。

今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36を踏まえ、2025年度の年次報告書を提出する。

なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年4月1日～2025年3月31日を対象としている。

また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

学修成果に、産業医学を含め、国際保健について詳細に記載されていることは評価できる。

学修成果について、学生と教員へ確実に周知すべきである。使命と目標とする学修成果の策定にかかわるプログラム評価委員会、カリキュラム委員会に、より多くの学生が参画すべきである。使命と目標とする学修成果の策定には、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが期待される。

1. 1 使命

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「産業医科大学学則」に使命が記載され、これを補完するものとして教育研究上の目的（ミッション）、建学の使命、ディプロマ・ポリシーが規定されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業医学に関する医学研究の達成や国際的健康、医療の観点を使命に盛り込んでいる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

1. 2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「講座等のあり方検討委員会」や「教員組織の編制方針」に基づき、医学部が自律的に教員組織の編制を図っている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業医学分野における最新の研究結果を学生教育に反映させている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

1. 3 学修成果

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学修成果（コンピテンス、コンピテンシー）について、学生と教員へ確実に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

新入生オリエンテーションにおける「教務に関する説明」の際に、教務部長からディプロマ・ポリシーおよびコンピテンス、コンピテンシーについて説明し、講義ごとに必ず確認して講義に臨むよう指示している。2025（令和7）年3月に、全学年の学生に対しコンピテンシーの到達度調査を行ったが、学年平均が年次を経るにつれ、到達度が低くなるという結果が得られた。この結果を受けて、医学教育改革推進センターが現行のコンピテンシーマイルストーンを検証したところ、マイルストーンが学年ごとに個別に設定されており、全体として発達段階的に構造化されていないため、縦断的な成長評価が困難であることが明らかとなった。加えて、各学年のマイルストーンに対して一律の4段階評価（1＝全く到達できなかった～4＝十分到達できた）を用いていたため、評価の信頼性および妥当性にも課題があることも明らかとなった。このような課題を踏まえ、医学教育改革推進センターにおいて、コンピテンシー評価をより発達段階的に構造化すべく、マイルストーンを医学部2年修了時・臨床実習開始前・卒業時の3段階で再設定し、教務委員会にて承認を得た。

【今後の計画】

改定版コンピテンシーマイルストーンをもとに、カリキュラムロードマップを再構築し、現行のカリキュラムにおいて教育が不十分な領域を同定する。年度末の学生のマイルストーンを用いた自己評価をもとに、個々の学生の到達度およびカリキュラム評価を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1 新入生オリエンテーション資料（抜粋）
- ・資料2 令和6年度 コンピテンシー到達度調査(自己評価アンケート)
- ・資料3 旧版 産業医科大学 医学部 コンピテンシーマイルストーン
- ・資料4 産業医科大学 医学部 コンピテンシーマイルストーン改定案

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学修成果に、産業医学を含め、国際保健について詳細に記載されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

1. 4 使命と成果策定への参画

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の策定にかかわるプログラム評価委員会、カリキュラム委員会に、より多くの学生が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

各委員会の構成員を見直し、委員として「医学部医学科の学生 各学年 若干名」と追加し、より多くの学生から意見を聴取する機会を設けることとした。新構成員となったプログラム評価委員会を2024（令和6）年3月29日に開催し、構成員となった学生5名からも意見聴取を行った。2024（令和6）年度にはプログラム評価委員会は開催されなかったため、2025（令和7）年3月に医学教育改革推進センター教員が医学部1年から6年までの各学年代表とのカリキュラムに関する意見交換会を開催した。

【今後の計画】

2025（令和7）年度にはプログラム評価委員会を開催し、得られた評価をもとに医学教育改革推進センター並びに教務委員会が共同でカリキュラム改善案を立案、その後カリキュラム委員会にて検討、審議する。カリキュラム委員会にも学生5名が参加するものとした。また、学生の授業評価アンケート項目を改善し、より効果的なフィードバックを教員に行えるようにする。今後、より頻回の学生アンケート実施および各学年代表との意見交換会を通じて、学生全体の意見を幅広く収集できるようにする。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料6 令和5年度 第1回 プログラム評価委員会議事概要
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料8 令和6年度 医学部学生代表とのカリキュラムに関する意見交換会

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・使命と目標とする学修成果の策定には、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

プログラム評価委員会、カリキュラム委員会の構成員を見直し、以下のとおり構成員を追加した。

＜プログラム評価委員会＞

- ・学内の医師以外の医療従事者

＜カリキュラム委員会＞

- ・学内の医師以外の医療従事者
- ・患者、公共ならびに地域医療の代表者
- ・産業医学振興に関する専門的知識及び経験を有する者

新構成員となったプログラム評価委員会を2024（令和6）年3月29日に開催した。

【今後の計画】

今後、プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センター並びに教務委員会が共同でカリキュラム改善計画を立案、カリキュラム委員会にて検討、審議する。また、産業医科大学における内部質保証の方針および各学部等の教育研究に関する「教育研究質保証推進委員会」も定期的に開催されている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料6 令和5年度 第1回 プログラム評価委員会議事概要
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要
- ・資料10 教育研究質保証推進委員会規程

2. 教育プログラム

大学の目的および使命に基づき、産業医を養成するカリキュラムが6年間一貫して編成されていることは評価できる。卒前教育と卒後の「産業医学卒後修練課程」との間の連携が適切に行われていることは、評価できる。

学生が自分の学修成果の進捗状況を常に理解できるカリキュラムと教授方法/学修方法を整えるべきである。行動科学、社会医学、医療倫理学は、それぞれに責任者を定め、学修内容を整理し実践すべきである。診療参加型臨床実習の期間と内容を、より充実すべきである。意図した学修成果を関連づけて教育科目の教育範囲、教育内容、教育期間を総合的に見直し明示すべきである。関連する科目の水平的統合・垂直的統合を一層推進し、効果的な教育体系を構築することが望まれる。教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会により多くの学生を含むべきである。

2. 1 教育プログラムの構成

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・大学の目的および使命に基づき、産業医を養成するカリキュラムが6年間一貫して編成されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・学生が自分の学修成果の進捗状況を常に理解できるカリキュラムと教授方法/学修方法を整えるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2022（令和4）年度末から全学生にコンピテンシー到達度に関する調査を実施しており、結果を学生にフィードバックしている。2024（令和6）年度には1年次の授業科目担当責任者によるコンピテンシー到達度評価を行った。

2025（令和7）年2月1日付で就任した専任の医学教育改革推進センター教授・センター長が、現行のマイルストーンによる到達度評価の問題点を洗い出し、医学教育改革推進センター教員と共同でコンピテンシー、マイルストーン改定案を策定した。

【今後の計画】

マイルストーン改定案は2025（令和7）年4月の教務委員会にて承認された。改定版マイルストーンを学生の到達度自己評価として用い、さらに現行のカリキュラムとの整合性および改善点について、医学教育改革推進センターとIR推進センターにおいて検討する。個々の学生が自分の学修成果の進捗状況をより理解しやすくできるよう、e-ポートフォリオシステムの改良を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2 令和6年度 コンピテンシー到達度調査(自己評価アンケート)
- ・資料4 産業医科大学 医学部 コンピテンシーマイルストーン改定案

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業医学に関する生涯教育のカリキュラムが設定されている。

改善のための示唆

- ・生涯学習につながるよう、アクティブ・ラーニングを用いたカリキュラムをより一層導入することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2025（令和7）年3月に、医学教育改革推進センター併任職員によりアクティブ・ラーニングについてFDを実施した。

【今後の計画】

上記のアクティブ・ラーニングについてFDを実施した医学教育改革推進センター併任職員を、2025（令和7）年5月から医学教育改革推進センター専任教員（講師）として採用することが決定している。今後アクティブ・ラーニング、学生評価法などのFDを医学部長と医学教育改革推進センターが共同で企画・実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料11 第44回医学部教員研修会開催通知

- ・資料 12 アクティブ・ラーニング (FD) 表紙

2. 2 科学的方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・臨床実習の現場で EBM の教育を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

現行のカリキュラムにおける EBM 教育の実施状況を調査したところ、医学部 4 年生までの EBM に関する基礎教育の不足について指摘を受けている。

【今後の計画】

現行のカリキュラムで「救急医学」の枠を使って行われている外部講師による EBM・文献検索の講義と、「総合診療医学」の枠で行われている臨床推論の授業のすり合わせを行い、より効果的な臨床実習前 EBM 教育を実施する。さらに、臨床実習指導教員を対象とし、EBM の臨床現場での実践と指導方略に関する FD を開催するとともに、臨床実習期間中に EBM の実践に関する全体講義および実習を企画する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 9 令和 6 年度第 1 回医学教育改革推進センター運営会議議事概要
- ・資料 13 令和 7 年度 教育要項 (「総合診療医学」「救急医学」抜粋)

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・「産業生態科学研究所」の教員も参画し、最新の産業医学分野の知識や実務を教育している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

2. 3 基礎医学

基本的水準： 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・基礎医学は、臨床医学を修得し応用するのに必要な基本的な科学的知見、概念および手法を理解するために役立つという観点から定義し、実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

それぞれに関連する領域の基礎医学、臨床医学の教員による意見交換を行う分野別水平垂直統合会議が2019（令和元）年から開催されている。

【今後の計画】

水平垂直統合カリキュラムのモデルとして、微生物学、免疫学・寄生虫学、薬理学、感染症科学の合同による2年次カリキュラム策定を検討する。また、別の分野における垂直統合について、医学教育改革推進センターと教務委員会にて検討する。

領域別水平統合会議を2025（令和7）年度には再開し、2028（令和10）年度からの新カリキュラムでの水平垂直統合について議論する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・科学的進歩について、人工知能、新興感染症、遺伝子診断、医用工学、原発事故など、現在および将来的に社会において必要になることをカリキュラムに反映させている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・行動科学および社会医学の「メドレーカリキュラム」について、それぞれの統括責任者を定め、学修内容の一貫性を担保し、実践すべきである。
- ・医療倫理学について、責任者を定め、6年間を通じた学修内容を整理し、実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2025（令和7）年3月に、医学概論、哲学概論、人間関係論、心理学の担当教員と医学教育改革推進センターとの打ち合わせを行った。行動科学、医療倫理学については、2026（令和8）年度から現行の医学概論Ⅰ～Ⅳの枠組みのなかで、行動科学、医療倫理学、医学概論の3つの柱としてカリキュラムの再構築を試みることにし、責任者は医学概論教授とした。社会医学に関しては責任者である衛生学教授と会合を行い、2025（令和7）年度中に社会医学メドレーカリキュラムに含まれている授業科目の科目担当責任者との打ち合わせを企画することとした。

【今後の計画】

2026（令和8）年度からの授業「医学概論」を「医学概論（医療倫理学・行動科学）」と科目名

を変更し、上述のように医学概論/行動科学/医療倫理学が医学部1年次から4年次にかけて学べるような形に順次変更する。社会科学は衛生学・公衆衛生学教授とモデル・コア・カリキュラムを参考に、現カリキュラムの見直しを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要
- ・資料14 行動科学・医療倫理学・社会医学に関する打ち合わせ
- ・資料15 令和7年度教育要項（メドレーカリキュラム「医療倫理学」抜粋）
- ・資料16 令和7年度教育要項（メドレーカリキュラム「社会医学」抜粋）
- ・資料17 令和7年度教育要項（メドレーカリキュラム「行動科学」抜粋）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・行動科学、社会医学、医療倫理学のカリキュラムを、科学的、技術的そして臨床的進歩に合わせて調整および修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【今後の計画】

医学教育改革推進センターを中心に、2028（令和10）年度からの大規模なカリキュラム改訂を企画しており、その際には6年間にわたる独立した行動科学・医療倫理学・社会医学カリキュラムの実施を検討している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料14 行動科学・医療倫理学・社会医学に関する打ち合わせ
- ・資料15 令和7年度教育要項（メドレーカリキュラム「医療倫理学」抜粋）
- ・資料16 令和7年度教育要項（メドレーカリキュラム「社会医学」抜粋）
- ・資料17 令和7年度教育要項（メドレーカリキュラム「行動科学」抜粋）

2. 5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・健康増進と予防医学の体験を、6年間を通じて実践していることは評価できる。

改善のための助言

- ・臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを十分持つべきである。
- ・臨床実習は、すべての重要な診療科で十分な期間実施すべきである。
- ・診療参加型臨床実習の期間と内容をより充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和6）年度から全学年が新カリキュラムに移行したことにより、4年次生から63週に亘って臨床実習が実施された。医学部5年次1月から3週間以上、6クールの診療参加型臨床実習を実施し、必須診療科「内科系」「外科系」「その他主要な診療科（精神、小児、産婦人科、救急）」のグループから各々必ず1診療科を選択するものとした。また、各診療科で、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）で定められた各医行為を経験させるようにした。

早期臨床体験実習において、地域の医療福祉施設での実習とオンラインによる在宅医療実習を行っている。

【今後の計画】

学内において、医学部4年次1月から5年次12月までの臨床実習を「見学型臨床実習」と認識していたところ、学外の医学教育専門家から、病棟のチームの一員として患者の診察、カルテ記載等を含む実習は診療参加型実習である、との指摘を受けた。

コア・カリキュラム令和4年度改訂版にある学生が行うべきすべての医行為ができなければ診療参加型ではないとの誤解があったため、今後は全63週において、よりよい診療参加型実習を実現すべく、各診療科の実習責任者に対するFDを実施するとともに、医行為の到達度や経験症例を学生と指導医が共有できるようeポートフォリオシステムの改善を行う。なお、Mini-CEXを医学部4年次1月から主要な診療科での導入についても実習担当指導医とのFDの中で検討する。

また、現在実施している早期臨床体験実習に加え、低学年における医療面接やシミュレーターを用いた医療手技のトレーニングの実施を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料18 産業医科大学学則 別表第1 医学部授業科目（第15条関係）
- ・資料19 診療参加型臨床実習について（クリクラ配属のイメージ）
- ・資料20 臨床倫理審査変更申請書（医行為）（同意の取得）
- ・資料21 診察項目・治療 各診療科割り振り
- ・資料22 基本的臨床手技 各診療科割り振り
- ・資料23 令和7年度 医学部教員研修会（FD）実施（案）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に患者診療への参画を深めていくことが期待される。
- ・さまざまな臨床技能教育が行われるように、シミュレーション教育を早期から十分に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

1、2年次の早期臨床体験実習Ⅰ、Ⅱにおいて、大学病院や地域での高齢者福祉施設での体験実習を開始しており、患者や施設利用者と接する機会となっている。さらに、1年次では医学概論ⅠにおいてEarly Medical Exposureとして福岡県内の重症心身障害児（者）施設での実習を行っている。

【今後の計画】

医学教育改革推進センターが管理するシミュレーション・ラボを用いて、低学年での基本医行為のトレーニングを開始する。

早期臨床体験実習Ⅱでは、高齢者福祉施設での体験実習とオンラインによる在宅医療実習を組み合わせているが、2025（令和7）年度から医学教育改革推進センターの教員が科目担当責任者となった。高齢者福祉施設での実習をより効果的にするため、認知症患者の効果的なケア技法であるユマニチュードを取り入れる等の改善を試みている。2026（令和8）年度からは早期臨床体験実習ⅠおよびⅢについても医学教育改革推進センターの教員が科目担当責任者となり、内容の改善を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料24 令和7年度 教育要項（「医学概論Ⅰ」抜粋）
- ・資料25 令和7年度 早期臨床体験実習Ⅱ 授業企画書

2. 6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・意図した学修成果を関連づけて教育科目の教育範囲、教育内容、教育期間を総合的に見直し明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

教育要項には、学生の関連する学修目標の理解につなげるため、各科目の講義内容に関連するコンピテンシーを記載している。前述のように、2025（令和7）年3月に医学教育改革推進センターにおいてコンピテンシー、マイルストーンの改定を行った。

【今後の計画】

改定版マイルストーンをもとに、各学年での学生の到達度自己評価を行う。今後、医学教育改革推進センターは IR 推進センターと共同で、コンピテンシーロードマップを作成する。また、各教育科目の教育範囲、教育内容、教育期間については、医学教育改革推進センターが教務委員会とともに評価し、各教育科目責任者に対してフィードバックを行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 産業医科大学 医学部 コンピテンシーマイルストーン改定案
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・関連する科学・学問領域および課題ごとに「水平垂直統合会議」が開催されている。

改善のための示唆

- ・関連する科目の水平的統合・垂直的統合を一層促進し、効果的な教育体系を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

関連する科目の水平的統合・垂直的統合を一層促進するための方針について、2024（令和6）年度医学教育改革推進センター運営会議にて検討した。

【今後の計画】

水平垂直統合カリキュラムのモデルとして、微生物学、寄生虫学、薬理学、感染症医学の合同による1、2年次カリキュラム改訂を検討する予定である。また別の分野における垂直統合については、医学教育改革推進センターと教務委員会にて検討する。

領域別水平垂直統合会議を2025（令和7）年度には再開し、2028（令和10）年度からの新カリキュラムでの水平統合について議論する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

2. 7 教育プログラム管理

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・カリキュラムの立案はカリキュラム委員会が、カリキュラムの実施は教務委員会が担っている。

改善のための助言

- ・教育カリキュラムの実施に責任と権限を持つ委員会に学生の代表を含むべきである。
- ・教育カリキュラムの立案に関する委員会により多くの学生を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2023（令和5）年6月から、教育カリキュラムの立案に関する委員会であるカリキュラム委員会の構成員を見直した。

【今後の計画】

今後、医学部プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会でカリキュラム改訂案を立案し、その後カリキュラム委員会にて審議、検討する。教育カリキュラムの実施責任と権限を持つ委員会である教務委員会や関連する教育小委員会において、会議の一部に学年代表の学生を参加させることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育カリキュラムの立案と実施に関する委員会に、より広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2023（令和5）年6月から、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会の構成員を見直し、以下のとおり構成員を追加した。

<プログラム評価委員会>

- ・学内の医師以外の医療従事者

<カリキュラム委員会>

- ・学内の医師以外の医療従事者
- ・患者、公共ならびに地域医療の代表者
- ・産業医学振興に関する専門的知識及び経験を有する者

新構成員となったプログラム評価委員会を2024（令和6）年3月29日に開催した。

（再掲）

【今後の計画】

今後、プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会にてカリキュラム改善案を立案、その後カリキュラム委員会にて審議、検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料6 令和5年度 第1回 プログラム評価委員会議事概要
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

2. 8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・卒前教育と卒後の「産業医学卒後修練課程」との間の連携が適切に行われていることは、評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

プログラム評価委員会、カリキュラム委員会の構成員を見直し、以下のとおり構成員を追加した。

<プログラム評価委員会>

- ・学内の医師以外の医療従事者

<カリキュラム委員会>

- ・学内の医師以外の医療従事者
- ・患者、公共ならびに地域医療の代表者
- ・産業医学振興に関する専門的知識及び経験を有する者

新構成員となったプログラム評価委員会を2024（令和6）年3月29日に開催した。（再掲）

【今後の計画】

今後、プログラム評価委員会を定期的で開催し、カリキュラムの評価を行う。また、年1回開催している「教員・保護者懇談会」において、学生の保護者からの意見を取り入れる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料6 令和5年度 第1回 プログラム評価委員会議事概要
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要
- ・資料26 令和6年度医学部第21回教員・保護者懇談会

3. 学生の評価

新カリキュラムで、各科目の定期試験を廃止し、形成的評価としての小テスト、レポートなどを導入した。

学生の知識、技能および態度を確実に評価し、学年ごとに学修成果の達成をモニタすべきである。様々な評価方法と形式をそれぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。技能、態度の評価方法の信頼性と妥当性を検証することが期待される。臨床実習に、mini-CEX、患者や多職種による 360 度評価などの多様な評価法をさらに多くの科で導入することが期待される。学修成果の達成度を段階的に評価し、学生の学修を促進する評価を実践すべきである。科目ごとの試験が学生の負担にならないように、時期や方法を適切に定めることが期待される。

3. 1 評価方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学生の知識、技能および態度を確実に評価し、ポートフォリオ等を用いて学年ごとに学修成果の達成をモニタすべきである。
- ・様々な評価方法と形式をそれぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・評価を外部の専門家によってより精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和 6）年度に、1 年次授業科目において、e-ポートフォリオを用いたコンピテンシーの到達度評価を学生による自己評価と 1 年次授業科目担当責任者が行った。前述のように、コンピテンシーマイルストーンの構造上の問題と、評価基準の不具合により、マイルストーンを改定するに至った。

【今後の計画】

臨床実習における e-ポートフォリオのユーザビリティ向上を図る。また、進級に係る試験（科目試験、基礎総合試験）の内的・外的妥当性の検討を医学教育改革推進センターと IR 推進センターが共同で行う予定である。医学教育専門家の外部講師による学生評価に関する FD の実施が 2025（令和 7）年 10 月に予定されており、現在の本学の学生評価方法についても評価を受けることを予定している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 9 令和 6 年度第 1 回医学教育改革推進センター運営会議議事概要
- ・資料 23 令和 7 年度 医学部教員研修会（FD）実施（案）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・技能、態度の評価方法の信頼性と妥当性を検証することが期待される。
- ・臨床実習に、mini-CEX、患者や多職種による 360 度評価などの多様な評価法をさらに多くの科で導入することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【今後の計画】

診療参加型臨床実習のより効果的な実施のため、臨床実習の評価基準、mini-CEX の導入について、各診療科の臨床実習責任者と FD を実施の上協議する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 23 令和 7 年度 医学部教員研修会 (FD) 実施 (案)

3. 2 評価と学修との関連

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・新カリキュラムで、各科目の定期試験を廃止し、形成的評価としての小テスト、レポートなどを導入した。

改善のための助言

- ・学生が学修成果を達成していることを保証する評価を実践すべきである。
- ・学修成果の達成度を段階的に評価し、学生の学修を促進する評価を実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024 (令和 6) 年度に、1 年次授業科目において、e-ポートフォリオを用いたコンピテンシーの到達度評価を学生による自己評価と 1 年次授業科目担当責任者が行った。前述のように、コンピテンシーマイルストーンの構造上の問題と、評価基準の不具合により、マイルストーンを改定するに至った。

【今後の計画】

改定版マイルストーンをもとにカリキュラムロードマップを作成し、各年次修了時のコンピテンシー到達度評価を行う。到達度評価の結果は医学教育改革推進センターと IR 推進センターが共同で分析し、授業の改善およびマイルストーンの改定を行う。

臨床実習で用いる学生評価方法を整備し、各診療科の臨床実習担当教員との FD とともに、e-ポートフォリオシステムを利用した Mini-CEX の導入を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2 令和 6 年度 コンピテンシー到達度調査 (自己評価アンケート)
- ・資料 4 産業医科大学 医学部 コンピテンシーマイルストーン改定案
- ・資料 9 令和 6 年度第 1 回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・科目ごとの試験が学生の負担にならないよう、時期や方法を適切に定めることが期待される。
- ・形成的評価としての小テストやレポートを学生にフィードバックすることが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

学生から、試験が負担であるとの意見がある 1 年次および 2 年次の授業科目は、カレンダー共有アプリで試験が重ならないようにしている。また 2 年次授業科目について、試験の実施時期についてアンケートを行い、試験が重ならないよう調整を行った。

2025（令和7）年3月に、医学教育改革推進センターが、小テストやレポートのフィードバックの状況、試験のスケジュール等について、各学年の学生代表から意見聴取を行った。

【今後の計画】

プログラム評価委員会を定期的を開催するとともに、教務課および医学教育改革推進センターは、学生からの授業評価や試験等に関する意見を積極的に収集し、改善につなげる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料8 令和6年度 医学部学生代表とのカリキュラムに関する意見交換会
- ・資料27 カレンダー共有アプリ画面

4. 学生

さまざまなカウンセリング制度により学生を支援していることは評価できる。複数の経済的支援制度を設けていることは評価できる。産業医についてのキャリアガイダンスや進路支援を行っていることも評価できる。

身体に不自由がある学生の入学について、方針を定めるべきである。入学決定に対する疑義申し立て制度を設けて、明示することが望まれる。学生が、使命の策定や教育プログラムの策定、管理、評価を審議する委員会に参加し、適切に議論に加わるべきである。

4. 1 入学方針と入学選抜

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学生の選抜について、地域偏在に考慮した学校推薦型選抜や総合型選抜などの多彩な方法で実施している。

改善のための助言

- ・身体に不自由がある学生の入学について、方針を定めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

合理的配慮に関する事前相談等について、入学者選抜実施要項に掲載し、2025（令和7）年度入学者選抜より運用を開始した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料28 産業医科大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程
- ・資料29 障害を理由とする差別の解消の推進に関する実施要領
- ・資料30 障害者支援推進委員会内規
- ・資料31 障害を理由とする差別の解消の推進に関する体制
- ・資料32 令和7年度学生募集要項医学部総合型選抜（抜粋）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業医養成を目的とするディプロマ・ポリシーに基づいて、アドミッション・ポリシーが策定され、学生の選抜が実施されている。

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を設けて、明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2025（令和7）年度入学者選抜より、HP上で受験生に周知のうえ合否結果に関する疑義申し立て制度の運用を開始した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 33 令和6年度第3回入試委員会議事概要（抜粋）
- ・資料 34 医学部入学者選抜にかかる疑義申し立て申請について

4. 2 学生の受け入れ

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・入学者の数および資質は、社会からの産業医の要請に合うよう調整されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

4. 3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・さまざまなカウンセリング制度により学生を支援していることは評価できる。
- ・複数の経済的支援制度を設けていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業医についてのキャリアガイダンスや進路支援を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

4. 4 学生の参加

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学生が、使命の策定や教育プログラムの策定、管理、評価を審議する委員会に参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会の構成員を見直し、委員として「医学部医学科の学生 各学年 若干名」と規定し、より多くの学生から意見を聴取する機会を設けることとした。新構成員となり学年が異なる学生5名が参加することとしたプログラム評価委員会を2024（令和6）年3月29日に開催した。

【今後の計画】

今後、医学部プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会でカリキュラム改訂案を立案し、その後カリキュラム委員会にて審議、検討する。また、各学年代表を通じて、学生全体の意見を幅広く聴取し、プログラム改善に活かす方法を医学教育改革推進センターで検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料6 令和5年度 第1回 プログラム評価委員会議事概要
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 教員

教員募集にあたって、「優れた産業医・産業保健専門職の養成と産業医学の振興を図る」という目的が明確化されている。

基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の責任を明示し、その活動をモニタすべきある。管理職に占める女性の割合に関する目標を確実に達成すべきである。教育、研究、診療の職務間のバランス、およびその活動における業績を年次ごとに評価すべきである。学内外の教員がカリキュラム全体を十分に理解できるよう、研修、能力開発、および支援を実施すべきである。

5. 1 募集と選抜方針

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「教員組織の編制方針」に基づき、「教育研究質保証推進委員会」および「講座等のあり方検討委員会」において、教員組織の適切性について評価を行っている。

改善のための助言

- ・基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の責任を明示し、その活動をモニタすべきである。
- ・管理職に占める女性の割合に関する目標を確実に達成すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

毎年度、教員の業績評価を行うことができる仕組みについて検討を開始した。なお、医学部の教育職員については、任期制による採用を行っており、再任審査の際に、教育、研究、診療等の面から個人評価を併せて実施している。

【今後の計画】

管理職に占める女性の割合に関する目標を達成に向け、公募時に多様な人材を求める旨明記しているほか、一般事業行動計画を策定するなど女性が管理職として活躍できる職場環境の整備に取り組んでいる。また、更なる職場環境整備のため、ダイバーシティに関する基本方針の策定を検討している。

雇用形態が「専門業務型裁量労働制（基礎系等教員）」と「変形労働時間制（診療を行う臨床系教員）」を適用する教員が混在するため、異なる働き方による更に細かな業績評価が求められることから、現在教員の人事評価基準など合わせて検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・教員募集にあたって、「優れた産業医・産業保健専門職の養成と産業医学の振興を図る」という目的が明確化されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教育、研究、診療の職務間のバランス、およびその活動における業績を年次ごとに評価すべきである。
- ・学内外の教員がカリキュラム全体を十分に理解できるよう、研修、能力開発、および支援を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2023（令和5）年度から、毎年度、教員の業績評価を行うことができる仕組みについて検討を開始した。

【今後の計画】

雇用形態が「専門業務型裁量労働制（基礎系等教員）」と「変形労働時間制（診療を行う臨床系教員）」を適用する教員が混在するため、異なる働き方による更に細かな業績評価が求められることから、教員の人事評価基準など合わせて検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「講座等のあり方検討委員会」において、教員と学生の比率が考慮されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 教育資源

学生を全国の事業所に派遣して行う「産業医学現場実習」を取り入れ、全国の産業医が非常勤講師として学生を指導していることは評価できる。

各学生が適切な臨床経験を積めるように、臨床実習で実際に経験できる疾患および患者数を把握し、十分な臨床資源を確保施設ごとに把握すべきである。地域住民のニーズを把握し、大学および学外の臨床実習施設を評価、整備、改善することが期待される。臨床実習において、学生が患者情報にアクセスし、適切に利用できることが望まれる。カリキュラム開発や教育技法および評価方法の開発について、教育専門家としての「医学教育改革推進センター」の利用についての方針を策定し、履行すべきである。国内外の他教育機関との交流をより一層充実すべきである。

6. 1 施設・設備

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「産業生態科学研究所」が設置され、産業医学の研究教育に活用されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・臨床実習学生用の学生実習室が整備された「急性期診療棟」を建設中である。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2023（令和5）年8月に「急性期診療棟」が開院し、棟内の学生実習室を臨床実習中の学生が利用している。

【今後の計画】

医学教育改革推進センターの管理するシミュレーション・ラボをさらに医学部学生および臨床研修医や病院職員が利用しやすくなるようラボのオンライン予約システムを構築中である。

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 2 臨床実習の資源

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学生を全国の事業所に派遣して行う「産業医学現場実習」を取り入れ、全国の産業医が非常勤講師として学生を指導していることは評価できる。

改善のための助言

- ・各学生が適切な臨床経験を積めるように、臨床実習で実際に経験できる疾患および患者数を把握し、十分な臨床資源を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

臨床実習で経験した症例に関しては、e-ポートフォリオを用いた記録を開始している。

【今後の計画】

今後、e-ポートフォリオのユーザビリティを向上させ、より多くの診療科での臨床実習に活用できるようにする。学生が臨床実習中に経験した医行為の到達度を学生と各診療科の指導医が共有で

きるようなシステムを構築する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 35 e-ポートフォリオ入力画面
- ・資料 36 学生が経験した疾患リスト

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・地域住民のニーズを把握し、大学および学外の臨床実習施設を評価、整備、改善することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【今後の計画】

医学教育改革推進センターおよび診療参加型臨床実習小委員会は、大学病院および学外の臨床実習施設での実習責任者に対する FD を行い、さらに各施設での臨床実習の評価、整備、改善に関する提言を検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 3 情報通信技術

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学生による ICT の利用状況を把握し、電子教材の有効利用につなげるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【今後の計画】

ICT の活用状況と課題把握のために学生アンケートを検討している。今後アンケート結果を参考として、電子書籍等の購入について検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・臨床実習において、学生が患者情報にアクセスし、適切に利用できることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2025（令和7）年1月開始の臨床実習より、臨床実習生が電子カルテに入力し、指導医が確認・承認することで登録ができるようシステムの改修を行った。

【今後の計画】

現在の各診療科における臨床実習中の医学生の電子カルテシステム利用状況を確認し、実習責任者と学生の電子カルテシステム利用について打合せのうえ、適切な利用が可能となるように臨床実習生に指導する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 37 電子カルテシステム学生代行入力権限表

6. 4 医学研究と学識

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・研究の施設・設備と重要性に関する情報を学生にさらに周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【今後の計画】

入学時のオリエンテーションにおいて、研究の施設・設備と重要性について説明を加える。1年次の先端医科学講義を通じて、学内の基礎・臨床医学研究について説明することや、教育要項等に研究施設の情報を掲載することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学修成果に産業医学における研究に携わることが定められ、実践されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 5 教育専門家

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「医学教育改革推進センター」を設置し、医学教育全般の改善に役立てている。

改善のための助言

- ・カリキュラム開発や教育技法および評価方法の開発について、教育専門家としての「医学教育改革推進センター」の利用の方針を策定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

医学教育改革推進センターに、2025（令和7）年2月に学外から日米での豊富な医学教育経験を

もつ専任のセンター長・教授が就任した。

【今後の計画】

2025（令和7）年度中の医学教育改革推進センターは、専任のセンター長、2名の副センター長（専任1名、併任1名）、教務課医学教育推進係（専任1名、併任1名）の構成となる。医学教育改革推進センターの役割は、卒前医学教育における能動的かつ継続的にカリキュラム評価と改善、FDの企画と実施、シミュレーション教育の計画と実施、教員に対する個別の教育支援活動（学習コンテンツ作成、授業計画立案のサポート、評価方法に関するアドバイスなど）などが考えられる。次回の医学教育改革推進センター運営会議（2025（令和7）年5月開催予定）において、各講座・科目のニーズや状況にあったセンターの利用方針についてさらに検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料23 令和7年度 医学部教員研修会（FD）実施（案）
- ・資料38 令和7年度 医学教育改革推進センター教職員名簿

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学教育に関する重要な情報を、学内の教員に広く周知し、教職員の教育能力向上をさらに図ることが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和6）年度には医学部長および教務課の企画により5回（うち共催2回）FDが開催された。

【今後の計画】

医学教育改革推進センターと医学部長が共同で、FDを定期的開催する。医学教育改革推進センターは、各講座・科目のニーズ状況にあった教員に対する個別の教育支援（学習コンテンツ作成、授業計画立案のサポート、評価方法に関するアドバイスなど）を提供する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料39 令和6年度 医学部教員研修会（FD）実施一覧

6. 6 教育の交流

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・国内外の他教育機関との交流をより一層充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

九州北部六大学医学教育連絡会議にて、九州北部の医学部（福岡大学、九州大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、産業医科大学）と定期的に医学教育に関する協議を実施し、他学の取組みを参考にしている。

また、海外の複数の大学と交換医学教育を実施している。

【今後の計画】

日本医学教育学会および岐阜大学医学教育センター（MEDC）主催の医学教育ワークショップ等に積極的に参加する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 40 令和 6 年度 九州北部六大学医学教育連絡会議 議事次第
- ・資料 41 令和 6 年度交換医学教育派遣学生について
- ・資料 42 引率レポート
- ・資料 43 令和 7 年度交換医学教育派遣学生について

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教職員と学生による国際交流を促進するため、プログラムと支援組織を充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和 6）年度医学部交換医学教育にて、6 月 17 日～28 日の期間、医学部 6 年次生計 18 名を提携先の海外の 4 大学に派遣した。派遣先大学および派遣学生数は以下のとおりである。

- 〈韓国〉 Wonkwang 大学（4 名）、Kosin 大学（3 名）
- 〈台湾〉 Mackay 大学（6 名）
- 〈タイ〉 Thammasat 大学（5 名）

また、交換医学教育で 8 月 8 日～9 月 6 日の期間において台湾の Mackay 大学医学部学生 5 名を受け入れた。他学の学生を受け入れた際には、歓迎レセプション等を主催し、学生同士の交流を促進している。

【今後の計画】

国際センターを中心に教職員・医学部学生・大学院生等の国際活動の支援を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 41 令和 6 年度交換医学教育派遣学生について
- ・資料 42 引率レポート
- ・資料 43 令和 7 年度交換医学教育派遣学生について
- ・資料 44 令和 6 年度 国際センターNEWS（抜粋）

7. 教育プログラム評価

「IR 推進センター」で収集・分析した入試成績と入学後成績、卒業生の進路情報を入試委員会にフィードバックし、学生の選抜方法などの検討・改善に活用している。

教学に関わる各委員会の役割分担を明確にし、カリキュラムを定期的にモニタする方法を確立すべきである。意図した学修成果（コンピテンス・コンピテンシー）の達成度に基づき、カリキュラムとその構成要素および学生の進歩を評価し、教育プログラムの課題を特定し対応すべきである。教育プログラムの評価結果を確実にカリキュラムに反映すべきである。教員と学生へのアンケート調査など、教育プログラムに関する系統的なフィードバックを定期的実施し、分析結果をカリキュラム改善に反映すべきである。使命と意図した学修成果、カリキュラムおよび資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を系統的にモニタする方法を確立し、分析すべきである。プログラム評価委員会に学生の代表を構成員として規定すべきである。

7. 1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会をはじめとする教学に関する委員会の役割分担を明確にし、教学 IR データに基づいた内部質保証を確実に実動すべきである。
- ・カリキュラムを定期的にモニタする方法を確立し、教育プログラムを評価すべきである。
- ・意図した学修成果（コンピテンス・コンピテンシー）の達成度に基づき、カリキュラムとその構成要素および学生の進歩を評価し、教育プログラムの課題を特定し対応すべきである。
- ・教育プログラムの評価結果を確実にカリキュラムに反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和6）年度に、1年次授業科目において、e-ポートフォリオを用いたコンピテンシーの到達度評価を学生による自己評価と1年次授業科目担当責任者が行った。別途記載のように、コンピテンシーマイルストーンの構造上の問題と、評価基準の不具合により、マイルストーンを改定するに至った。

2024（令和6）年度はプログラム評価委員会が開催されなかったため、2025（令和7）年3月に医学教育改革推進センターが医学部学生代表からの意見聴取を行った。

【今後の計画】

今後、医学教育改革推進センターにおいて、SPICES モデルによる臨床医学系カリキュラムの評価を行う。

医学部プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会でカリキュラム改訂案を立案し、カリキュラム委員会にて審議、検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 産業医科大学 医学部 コンピテンシーマイルストーン改定案
- ・資料8 令和6年度 医学部学生代表とのカリキュラムに関する意見交換会
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラムの特定の構成要素を定期的に分析し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・卒前から卒後にわたる学修成果の達成度の分析に基づき、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

IR 推進センターにおいて、在学生に対するカリキュラム評価アンケートを実施し、プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会において改善の検討に活かしている。

【今後の計画】

今後、医学教育改革推進センターと IR 推進センターが共同して、学生の成績評価に加え、学生と

担当教員からのフィードバックなどからカリキュラムの評価を行う。また、医学教育改革推進センターは独自に授業計画やシラバス、評価方法等の分析と教育支援を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要
- ・資料45 IR推進センター アンケート年間計画案

7. 2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教員と学生へのアンケート調査など、教育プログラムに関する系統的なフィードバックを定期的
に実施し、分析結果をカリキュラム改善に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

IR推進センターにおいて、在学生に対するカリキュラム評価アンケートを実施し、プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会で改善に活かしている。

【今後の計画】

今後、医学教育改革推進センターとIR推進センターが共同して、学生の成績評価に加え、学生と担当教員からのフィードバックなどからカリキュラムの評価を行う。また、医学教育改革推進センターは独自に授業計画やシラバス、評価方法等の分析と教育支援を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料46 令和6年度4年次生・6年次生「カリキュラム評価アンケート」集計結果
- ・資料47 令和6年度卒業1年目臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」
集計結果

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教員と学生からの系統的なフィードバックの分析結果を、教育プログラムの開発に活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

IR推進センターにおいて在学生に対するカリキュラム評価アンケートを実施し、プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会で改善に活かしている。（再掲）

【今後の計画】

今後、医学教育改革推進センターとIR推進センターが共同して、学生の成績評価に加え、学生と担当教員からのフィードバックなどからカリキュラムの評価を行う。また、医学教育改革推進センターは、独自に授業計画やシラバス、評価方法等の分析と教育支援を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 46 令和 6 年度 4 年次生・6 年次生「カリキュラム評価アンケート」集計結果
- ・資料 47 令和 6 年度 卒後 1 年目臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」集計結果

7. 3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と意図した学修成果、カリキュラムおよび資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を系統的にモニタする方法を確立し、分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

IR 推進センターにおいて、「コンピテンス到達度調査」、「4 年次生・6 年次生カリキュラム評価アンケート」、「卒後 1 年目臨床研修先 コンピテンス到達度評価アンケート」を行い、プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会において改善に活かしている。

【今後の計画】

今後は実施する学年を順次進行し、6 年間継続して学修成果の評価を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2 令和 6 年度 コンピテンス到達度調査(自己評価アンケート)
- ・資料 4 産業医科大学 医学部 コンピテンスマイルストーン改定案
- ・資料 46 令和 6 年度 4 年次生・6 年次生「カリキュラム評価アンケート」集計結果
- ・資料 47 令和 6 年度 卒後 1 年目臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」集計結果

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「IR 推進センター」で収集・分析した入試成績と入学後成績、卒業生の進路情報などを該当する委員会にフィードバックし、学生の選抜方法などの検討・改善に活用している。

改善のための示唆

- ・卒業生の背景と状況を把握するための系統的な調査を実施し、分析することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

卒後 1 年目の卒業生（臨床研修医）に「コンピテンス到達度評価アンケート」を行い、学修成果の達成度およびカリキュラムに関するフィードバックを得ている。

【今後の計画】

今後、IR 推進センターにおいて、卒後 3 年目と 7 年目の卒業生を対象に、卒業時のコンピテンスの内容や到達度が適切かを調査するためのアンケートを実施予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 45 IR 推進センター アンケート年間計画案
- ・資料 47 令和 6 年度 卒後 1 年目臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」集計結果

7. 4 教育の関係者の関与 基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・プログラム評価委員会に学生の代表を構成員として規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

プログラム評価委員会の構成員を見直し、委員として「医学部医学科の学生 各学年 若干名」と規定し、より多くの学生から意見を聴取する機会を設けることとした。新構成員となったプログラム評価委員会を2024（令和6）年3月29日に開催した。カリキュラム委員会にも学生が5名参加するものとした。

【今後の計画】

引き続き、教育の質を保証すべく、定期的にプログラム評価委員会を開催し、今後は、構成員である学生を通じて、学生全体の意見を集めることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料6 令和5年第1回医学部プログラム評価委員会議事録
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・広い範囲の教育の関係者へ、教育プログラムの評価結果の閲覧を許可することが望まれる。
- ・卒業生の勤務する病院などから、学修成果の達成度およびカリキュラムに関する系統的なフィードバックを得ることが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

卒後1年目の卒業生（臨床研修医）に「コンピテンス到達度評価アンケート」を行い、学修成果の達成度およびカリキュラムに関するフィードバックを得ている。

【今後の計画】

今後、IR推進センターにおいて、卒後3年目と7年目の卒業生を対象に、コンピテンス、コンピテンスの内容が適切かを調査するためのアンケートを実施予定である。

また、各種アンケート結果について、本学ホームページ上での公開を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料45 IR推進センター アンケート年間計画案
- ・資料47 令和6年度卒後1年目臨床研修先「コンピテンス到達度評価アンケート」集計結果

8. 統轄および管理運営

産業医学政策や地域医療に関し、行政や地域社会と建設的な交流を持っていることは評価できる。

教学に関する各委員会および「医学教育改革推進センター」の位置づけと責任範囲をより明確にすべきである。統轄する委員会組織に、学生や卒業生を含む広い範囲の教育の関係者からの意見を、さらに反映させることが望まれる。教育資源の分配においては、教育業績も踏まえた教育上の要請に沿って配分すべきである。事務職員および専門職員をより適切に配置し、教育プログラムと関連の活動を支援すべきである。事務組織においても、教学にかかわるSDをさらに充実することが望まれる。

8. 1 統轄

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教学に関する各委員会および「医学教育改革推進センター」の位置づけと責任範囲をより明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

医学教育改革推進センターでは、2025（令和7）年2月に学外から日米での豊富な医学教育経験をもつ専任のセンター長・教授が就任した。

【今後の計画】

2025（令和7）年度中の医学教育改革推進センターは、専任のセンター長、2名の副センター長（専任1名、併任1名）、教務課医学教育推進係（専任1名、併任1名）で構成されることとなり、2025（令和7）年5月には医学教育学修士課程を修了、認定医学教育専門家資格取得見込みである、専任の講師・副センター長が就任する。

医学教育改革推進センターの役割は、卒前医学教育における能動的かつ継続的にカリキュラム評価と改善、FDの企画と実施、シミュレーション教育の計画と実施、教員に対する個別の教育支援活動（学習コンテンツ作成、授業計画立案のサポート、評価方法に関するアドバイスなど）などが考えられる。次回の医学教育改革推進センター運営会議（2025（令和7）年5月開催予定）において、各講座・科目のニーズや状況にあった利用方針についてさらに検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料48 医学教育改革推進センター運営会議内規
- ・資料49 同窓会誌「赤煉瓦」医学教育改革推進センター新任教授挨拶

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・統轄する委員会組織に、学生や卒業生を含む広い範囲の教育の関係者からの意見を、さらに反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2025（令和7）年3月に、医学教育改革推進センターが医学部各学年代表との意見交換会を行な

った。

【今後の計画】

医学部プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会でカリキュラム改善案を立案し、その後カリキュラム委員会にて審議、検討する。

学生の学年代表に、当該学年の意見を集約した上で、プログラム評価委員会やカリキュラム委員会だけでなく、教務委員会や他の教育小委員会等に部分的に出席する方法を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料8 令和6年度医学部学生代表とのカリキュラムに関する意見交換会
- ・資料9 令和6年度第1回医学教育改革推進センター運営会議議事概要

8. 2 教学における執行部

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・医学教育プログラムを運営する教学の執行部の責務をより明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

医学教育改革推進センター教授・センター長就任に伴い、教務委員会および各教育小委員会に医学教育改革推進センター長がオブザーバーとして参加することとした。

【今後の計画】

医学部プログラム評価委員会で得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会でカリキュラム改訂案を立案し、その後カリキュラム委員会にて審議、検討する。

次回の医学教育改革推進センター運営会議（2025（令和7）年5月開催予定）において、各講座・科目のニーズや状況にあった利用方針について、さらに検討予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料5 産業医科大学医学部プログラム評価委員会規程
- ・資料7 産業医科大学医学部カリキュラム委員会規程
- ・資料48 医学教育改革推進センター運営会議内規

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・学長、副学長、医学部長は、常勤監事による教学関係の業務監査を毎年実施している。

改善のための示唆

- ・教学におけるリーダーシップの責務に対する評価を、医学部の使命と学修成果に照合して行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【今後の計画】

学長、副学長、医学部長への常勤監事による教学関係の業務監査の内容に、医学部の使命と学修成果の達成に対するリーダーシップについての評価を加えることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

8. 3 教育予算と資源配分

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・教育資源の配分においては、インフラ整備も含め教育業績も踏まえた教育上の要請に沿って配分すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和6）年度から研究費の傾斜配分において、組織運營業績評価として教育活動の評価項目を含めることとした。

【今後の計画】

今後は、インフラ整備も含めて、教育資源の配分方法も検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

・資料 50 令和7年度 研究費傾斜配分方法

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

・社会の産業医学への要請を考慮して、教育資源の配分を行っている。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

8. 4 事務と運営

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・事務職員および専門職員をより適切に配置し、教育プログラムと関連の活動を支援すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

2024（令和6）年度から医学教育改革推進センター長に専任教授が就任した。また、学内の教育プログラムへの理解の充実を図るため、医学教育改革推進センター長を医学部教授会の構成員とした。

【今後の計画】

医学教育改革推進センターに、2025（令和7）年5月に専任教員（講師）が就任し、さらなる組織強化を図る。医学教育改革推進センターが管理するシミュレーション・ラボを専任で管理する人員を追加配置し、学内外教育活動の支援強化を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 49 同窓会誌「赤煉瓦」医学教育改革推進センター新任教授挨拶

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・事務組織においても、教学にかかわるSDをさらに充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

アクティブ・ラーニングのFD視聴を事務職員に推奨した。

【今後の計画】

医学教育改革推進センターと事務組織での連携の上、教学に係る大学事務職員を対象としたSDの実施を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 12 アクティブ・ラーニング（FD）表紙

8. 5 保健医療部門との交流

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業医学政策や地域医療に関し、行政や地域社会と建設的な交流を持っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・産業保健に関して保健医療関連部門との協働が構築されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし

9. 継続的改良

2006年度、2013年度、2020年度に大学基準協会による機関別認証評価を受けた。

教学に関する各種委員会および「IR推進センター」を設置し、新カリキュラムの導入、学修成果の制定などを行っている。

教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を整理・策定し、教学に関する継続的改良を確実に行うべきである。

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・教学に関する各種委員会および「IR推進センター」を設置し、新カリキュラムの導入、学修成果の制定などを行っている。

改善のための助言

- ・教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を整理・策定し、教学に関する継続的改良を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

教学に関する継続的改良に向けた円滑な連携を図るため、IR推進センター副センター長が医学教育改革推進センター副センター長を2023（令和5）年10月から兼任している。また、医学教育改革推進センター長はIR推進センター運営会議の委員となっている。

【今後の計画】

今後、医学教育改革推進センターとIR推進センターと共同して、卒前医学教育におけるカリキュラム評価と改善を継続的かつ能動的に実施する。また、医学部プログラム評価委員会を定期的開催し、そこで得られた評価をもとに、医学教育改革推進センターと教務委員会でカリキュラム改善案を立案し、カリキュラム委員会にて審議、検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料38 令和7年度 医学教育改革推進センター教職員名簿

質的向上のための水準： 評価を実施せず

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

なし

改善状況を示す根拠資料

なし